

令和7年度第1回政策評価委員会資料

行政経営課

議題

- (1)令和6年度(令和7年度)行政評価の結果報告について
- (2)定性的評価の視点について
- (3)令和7年度(令和8年度実施)行政評価(案)について

(1)令和6年度(令和7年度実施) 行政評価の結果について

➡【資料2】令和6年度(令和7年度)行政評価の実施結果

① 施策評価の結果

全 6 8 施策における設定指標に基づいた施策の進捗結果

指標達成評価	令和5年度				令和6年度			
	成果指標		活動指標		成果指標		活動指標	
	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合	施策数	割合
S: 目標超過達成 (達成率130%以上)	3	4.4%	15	22.1%	7	10.3%	10	14.7%
A: 達成 (達成率100~130%)	17	25.0%	19	27.9%	18	26.5%	24	35.3%
B: 相当程度達成 (達成率70~100%)	43	63.2%	25	36.8%	29	42.6%	25	36.8%
C: 未達成 (達成率40~70%)	4	5.9%	6	8.8%	5	7.4%	6	8.8%
D: 大きく未達成 (達成率0~40%)	1	1.5%	3	4.4%	1	1.5%	2	2.9%
指標変更 (—で表示)					8	11.8%	1	1.5%
合 計	68	100.0%	68	100.0%	68	100.0%	68	100.0%

②-1 成果指標の内訳【区民意識調査の指標】

成果指標68のうち、区民意識調査を使用したもの…34

パターン		対応策	個数	
A	R6年度区民意識調査に、 R5年度までと内容が同じ または類似した質問がある	目標値はもともとの値のまま使用し、 実績のみR6年度区民意識調査の 結果を使用	全く 同じ質問を 使用	15
			少し異なる 質問を代用	5
B	R6年度区民意識調査に、 R5年度までと内容が同じ または類似した質問がない	指標設定チェックシート等から 新たに他の成果指標を設定	6	
C	上記A・B対応策で 対応不可	R6実績値は記載なし R4・R5の評価内容のみを記載 ➡指標の達成度は「―」で表記	8	
合計			34	

②-2 パターンA:R5年度までと全く同じ質問を使用

No.	施策	成果指標(区民意識調査の質問)
1-1-1	地域における区民参画・協働の推進	「さまざまな地域活動団体やNPO、企業、大学、行政等の連携によるまちづくりが進んでいる」 について、肯定的な回答をする区民の割合(%)
1-1-2	地域における活動・交流拠点の充実【重点】	「地域活動のための施設やスペースがあり、子どもから高齢者までの多様な世代が交流している」 について肯定的な回答をする区民の割合【%】
3-3-3	健康危機管理の強化	感染症や食中毒等に不安を感じることが少ないと思う区民の割合【%】
3-3-4	地域医療体制の充実	「誰もが身近な場所で適切な医療サービスの提供を安心して受けられると思う」 と思う区民の割合【%】
5-1-1	みどりの活動拠点の創造・育成【重点】	「近くに好きな公園がある」と思う区民の割合【%】
5-2-2	自然との共生の推進	「多様な生きものが生息・生育できる環境づくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】
5-3-2	安定的で適正なごみ処理の推進	「ごみの収集が円滑に行われておりまちがきれいに保たれている」と思う区民の割合【%】
6-1-1	地域の特性を生かした市街地の形成	「地域特性にあわせたまちづくりが進み、快適な街並みが生まれている」と思う区民の割合【%】
6-1-2	池袋副都心の再生【重点】	「池袋周辺で、新宿、渋谷などにはない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】
6-2-1	安全・安心に住み続けられる住まいづくり【重点】	「現在住んでいる地域に住み続けたい」と思う区民の割合【%】
6-4-2	自助・共助の取組への支援	「家庭、住民一人ひとりの防災意識や災害発生時の行動力が高まっている」と思う区民の割合【%】
7-2-1	観光資源の発掘と活用	「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】
7-2-4	多様な来街者の受入環境の整備	「区内を訪れた国内外の人々に満足いただける受け入れ環境が整っている」と思う区民の割合【%】
8-1-1	文化芸術の鑑賞・参加機会の創出【重点】	「文化芸術に触れる機会が多くなった」と思う区民の割合【%】
8-1-2	地域文化・伝統文化の継承と発展	「歴史的財産である文化財や文化資源が大切に保存・活用されている」と思う区民の割合【%】

②-3 パターンA:R5年度までと異なる質問を代用

No.	施策	成果指標(区民意識調査の質問)		R6 達成率
3-3-1	がん・生活習慣病 対策等の推進	「がん・生活習慣病に関する正しい知識が広がり、がん検診や各種検診が受けやすい環境にある」 と思う区民の割合【%】		—
		代用したR6質問	「がん・生活習慣病等に関する正しい知識を得ることができ、 がん検診や各種健診が受けやすい環境にある」	78.8%
3-3-2	こころと体の 健康づくり の推進【重点】	「ライフステージに合わせた、こころと体の健康づくりに関する支援が充実している」 と思う区民の割合【%】		—
		代用したR6質問	「健康づくり支援が充実していて、心身の健康に気をつけて生活できている」	144.2%
6-4-3	被害軽減のための 応急対応力向上	「震災時の避難、救援体制など、まち全体として災害への備えができている」と思う区民の割合【%】		—
		代用したR6質問	「異常気象や感染症、首都直下地震などの様々な危機事象に対する強靱なまちづくりが進んでいる」	139.4%
7-1-3	権利と責任による 消費者市民社会 の形成	「消費生活でトラブルに悩まされず、相談窓口も充実している」と思う区民の割合【%】		—
		代用したR6質問	「専門知識をもった相談員が消費相談に乗ってくれる体制が整っている」	50.0%
8-2-1	多様な 学習活動の支援と 学びの循環の創造	「学んだことを地域で生かして活動をしている」と思う区民の割合【%】		—
		代用したR6質問	「身近なところに、趣味や教養など自分の人生をより豊かにするために学ぶ場がある」	392.2%

②-4 パターンB:新たな成果指標を設定

No.	施策	成果指標(区民意識調査の質問)	
2-2-1	平和と人権意識の普及・啓発	旧指標	「地域社会において平和と人権が尊重されている」について、肯定的な回答をする区民の割合【%】
		新たに設定	中学生平和派遣事業実施回数【回】
4-4-1	家庭教育の支援	旧指標	「家庭教育に対する支援が充実している」について肯定的な回答をする割合【%】
		新たに設定	教育相談の終了件数【件】
6-1-4	居心地が良く歩きたくなる空間づくり	旧指標	「池袋駅を中心として、居心地が良く歩きたくなるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】
		新たに設定	「池袋周辺で、新宿・渋谷などにはない魅力あるまちづくりが進んでいる」と思う区民の割合【%】
7-2-2	魅力的な観光情報の発信強化【重点】	旧指標	「区の観光情報を提供するための素材を簡単に手に入れられる」と思う区民の割合【%】
		新たに設定	「豊島区を魅力ある観光地として他人に紹介できる」と思う区民の割合【%】
7-2-3	交流都市との共生の推進	旧指標	「区内で地方の特産品や観光情報などを入手する機会がある」と思う区民の割合【%】
		新たに設定	交流事業実施自治体数【自治体】
8-2-2	スポーツ・レクリエーション活動の推進【重点】	旧指標	「週に1回以上スポーツを実施する」18歳以上の区民の割合【%】
		新たに設定	「地域でスポーツに親しむ環境や機会がある」について肯定的な回答をする区民の割合【%】

6-1-2と同指標

7-2-1と同指標

②-5 パターンC:R6実績を算出できなかった

施策No.	施策	R6実績の算出・代替ともにできなかった指標
2-1-1	在住外国人の暮らしへの支援【重点】	「外国人にとって暮らしやすいまちであると感じる」と思う区民の割合【%】
2-1-2	共生意識の醸成と交流の促進	「地域で外国人との交流がある」と思う区民の割合【%】
2-3-1	あらゆる分野における男女共同参画の推進【重点】	「性別等により、差別されない社会である」と思う区民の割合【%】
2-3-2	女性が輝くまちの推進	「女性が自ら望む形で働ける社会である」と思う区民の割合【%】
2-3-3	配偶者等暴力防止対策の充実	「配偶者等からの暴力(DV)に関する相談機関が周知されている」と思う区民の割合【%】
4-1-1	子どもの社会参加・参画の促進	「子どもが自主的に地域や社会の活動に参加できる機会がある」と回答した割合【%】
6-1-3	活力ある地域拠点の再生	「駅および駅周辺が整備され、利用しやすくにぎわっている」と思う区民の割合【%】
6-3-1	総合交通戦略の推進	「鉄道・バス等の交通が便利である」と思う区民の割合【%】

➡施策2 地域づくりの方向「多様性を尊重し合えるまち」の施策は、新基本計画(2025-2029)では総論に含められたことにより、区民意識調査の質問作成対象からはずれた。また、これら「外国人・多文化共生・男女平等参画社会」といったテーマの成果指標では、特に意識の醸成・把握が重要だったことから、区民意識調査以外の方法では成果指標を設定することが難しかった。

③ 事業計画の変更があった活動指標

後期計画策定後の政策的判断により事業計画が変更となったため、目標値自体が設定できなくなり、実績なしとなったものがある。

4-5-1 人格形成の基礎を培う教育・保育の提供

活動指標	区立幼稚園のうち認定こども園へ移行した園数【園】		後期計画 策定時 (2021)	令和4年度	令和5年度	令和6年度
令和6年度 達成状況	—	目標値	0	0	0	0
		実績値	0	0	0	0
		達成率	—	—	—	—

教育委員会と子ども家庭部が連携し、保幼小連絡会の開催、保幼小連携推進プログラムの検討など保幼小中の連携推進に向けた取組が、学校評価における当該指標について目標値の達成に寄与している。

○活動指標「区立幼稚園のうち認定こども園へ移行した園数【園】」について
令和6年11月に、「豊島区教育ビジョン検討委員会幼児教育部会最終報告」で、区立幼稚園認定こども園化については、早期の設置は検討せず、国の制度や東京都の動向等をふまえ、区の状況を総合的に検討・判断をしていくこととしたため、目標値を変更。

今後の施策評価では、補助指標の設定を検討。

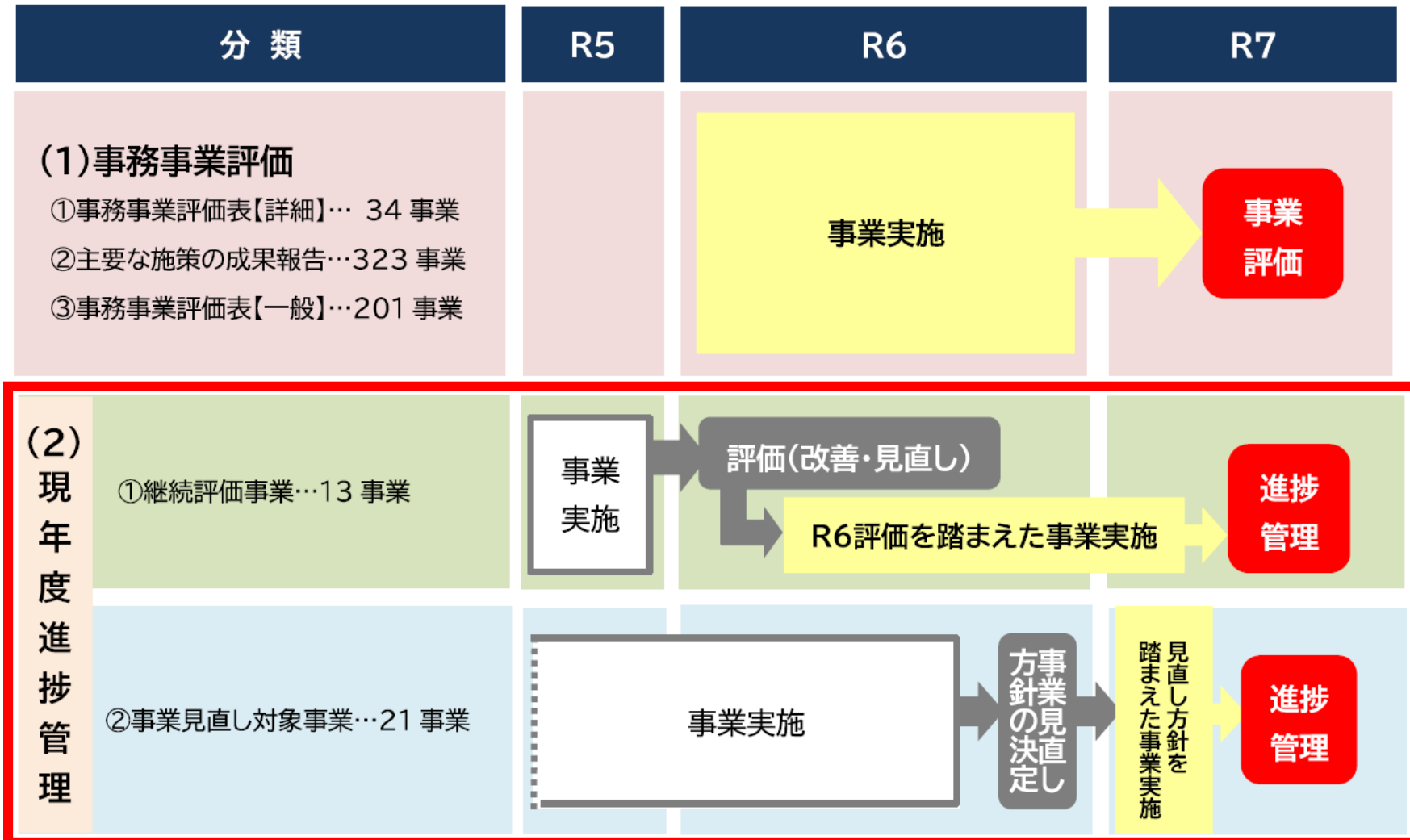
➡(4)③-1計画の指標に変更が生じた場合の対応案で説明

④ 成果指標と活動指標の達成率に乖離が大きかった指標

施策	成果指標	R6 達成率	活動指標	R6 達成率
6-3-3	自動車走行環境整備済路線【km】	29.6%	駐輪場における子供乗せ大型自転車等 スペース確保【台】	124.0%
7-2-3	交流事業実施自治体数【自治体】	117.4%	ファーマーズマーケット出店自治体数 【自治体】	25.0%
7-2-4	「区内を訪れた国内外の人々に満足いた だけの受け入れ環境が整っている」と思 う区民の割合【%】	101.1%	外国語観光ボランティアガイド年間活 動延べ人数【人】	3.4%

③-1 現年度進捗管理について

当該年度(今年は令和7年度)6月末までの取組状況の進捗管理と課題を確認し、以後、継続して進捗状況等を確認するとともに、次年度の予算編成に活用するため、新設した。



③-2 現年度進捗管理の確認結果

①対象事業

類 型	選定内容	事業数
継続評価事業	令和 6 年度実施 事務事業評価結果が 「B:改善・見直し」の事業	13 事業
事業見直し対象事業	令和 6 年度事業見直し実施事業 ※休廃止事業や内部事務事業等は除外（応急活動体制 整備関係経費、全庁における冊子ペーパーレス化、東 アジア文化都市交流事業経費 等）	21 事業
計		34 事業

②進捗管理結果

令和 7 年度 6 月末までの 取り組み状況	継続評価事業		事業見直し対象事業		合計	
	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合
A：予定以上に進んだ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
B：予定通りに進んだ	13	100.0%	19	90.5%	32	94.1%
C：予定より遅れている	0	0.0%	2	9.5%	2	5.9%
合 計	13	100.0%	21	100.0%	34	100.0%

③-4 見直しが「予定より遅れている」例

事業名	ICT環境整備・活用事業経費
R7年度当初の 取組方針	<ul style="list-style-type: none">・学習タブレットの新規購入(年内)や校務PCの入替(8月)の準備。・令和6年度卒業生から回収したタブレットを新入生に配布するローリングの予定だったが、回収分について想定以上に故障台数が多かったため、小・中学校一年生への学習タブレットの配付が遅れた。
R7年度4-6月期 実施内容	中学校一年生に優先配付するため、小学校から一年生配付用の学習タブレットを回収し、5月中に中学校へ配付を完了した。小学校一年生への配付が二学期に間に合うように、修理が必要な端末の回収を早めるなど準備を進めている。
分析と対応	<p>購入後5年を経過した学習タブレットの故障が増えている。特に卒業生から回収した学習タブレットの故障が多く、修理対応に2か月程度の時間を要すること及び予備機が足りないことから、新一年生への配付が遅れた。今年度から3年間かけて学習タブレットを購入するので、5年前に購入して故障していない機器を予備機にし、学習タブレットの未配付期間がないようにする。</p> <p>学習タブレットの重さについては、予算上、軽量の機器を今年度は購入できないため、特に低学年の持ち帰りにおける負担を解消することができない。次年度以降に購入する機種を、キーボード部分を取り外せるタブレットにすることができるかなど検討する。</p>

③-5 見直しが「予定より遅れている」例

事業名	ぞうしがやこどもステーション運営事業
R7年度当初の 取組方針	地域文化創造館の指定管理者である、としま未来文化財団の高い専門性やノウハウが発揮される自主事業として再構築する。課題としては、生涯学習・スポーツ課への事務移管手続き、各種条例改正等の事務処理に時間を要する。
R7年度4-6月期 実施内容	としま未来文化財団の補助事業として実施する会場として活用する。 ○6月27日(金)開催 0.1.2.のおもちゃ箱「親子で楽しむおとあそび♪ひろば」 内容:多様な音を通して音楽を楽しむ経験を味わい、楽器や歌、リズム遊びを通して親子のコミュニケーションを図ることを目的とした音楽ワークショップ。(全5回のうちの第一回目) 参加者:20組/41名(乳幼児とその保護者) 生涯学習・スポーツ課と財団を交えた移管に向けたミーティングを実施し、課題を整理した。
分析と対応	雑司が谷地域文化創造館への組み込みに向け、生涯学習・スポーツ課と未来文化財団と調整中。令和8年度に当該施設に組み込むよう、条例改正等の課題を整理中。

(2) 定性的評価の視点のブラッシュアップ

①-1 定性的評価の視点

昨年度までにあげられた課題と方向性は以下の通り。

- i. 効果があったか、なかったかを選択してから記載するように様式変更
➡(4)令和7年度(令和8年度実施)行政評価(案)についてにて説明
- ii. 視点の書き方としては「事業等に対する区民の意見・感想」「アンケート結果」その他「～～度」「～～率」「～～数」であっても、「進捗状況」「具体的な事例」「根拠の解釈」等を捉えて記載できるものであれば、定性的評価の視点として適当とみなす。(区民意識調査や、事業アンケート等の結果を含む)

<定性的評価となりえる主な要素>

- ・事業等を実施する中で得られた区民の声、感想、反応
- ・サービスの質やレベルの向上
- ・地域、組織、関連機関との連携の状況
- ・その他、業務に関わる創意工夫

② 定性的評価の視点のブラッシュアップ

定性的評価の視点の抽出の仕方について改めて資料説明・調整を実施し、全施策について、所管部・課による定性的評価の視点の修正を実施した。

→【資料3】定性的評価の視点一覧

結果	個数
改善	26
修正不要 (もともとの記載に問題がなく、追加修正もなかったもの)	64
疑義あり (修正はされたが、今一つ)	3
修正なし	3
合計	96

※視点は取組方針と1対1ではなく、複数の取組方針をまとめて一つの視点を抽出している施策もあるため、合計数は施策数(50)や取組方針の数(101)とは一致しない。

③-1 「改善」の例

施策	3-①-3 社会とのつながりや参加を支えるしくみづくり
取組方針(要約)	地域の多様な主体が連携し、孤独・孤立の視点を取り入れてSOSを出しやすい社会をつくる。一人ひとりが自分らしく生きられるよう、支援者の活動を通じて本人が望む社会とのつながりを実現する。福祉・子育て・教育・文化・スポーツ・まちづくりなど、幅広い分野で居場所づくりとつながりを公民連携で推進する。区民ひろばなどのイベント・交流の場の情報発信を強化し、区民の交流機会を増やす。
定性的評価の視点(修正前)	・他者との交流の質や内容
指摘事項／改善の方向性案	【具体性不十分】他者と言うのは、地域住民同士の交流か？また、その質や内容がどういった状態になればよいのかがわからないため、理想的な事例をあげるなど、もう少し具体化する必要がある。「地域住民同士が交流を継続したことによる交流のひろがり」など、検討されたい。
定性的視点(修正後)	・いざ困ったことがあったときに相談ができる関係性であるかどうかなどの視点

- ➡改善のポイントを踏まえた上で、事務局提案どおりではなく、施策の内容に沿った所管部局ならではの視点が抽出された。
- また、施策3では所管部局独自の取組みで定性的視点についての根拠・所管課の考えを別途作成しており、施策内容の考察の結果、改善された例が多かった。

③-2 「改善」の例

施策	7-③ 交通安全対策の推進
取組方針(要約)	警察・自治体・関係団体・学校・鉄道事業者・企業と連携して、地域の交通安全を推進。新しいモビリティ(電動キックボード等)にも対応。年間を通じて、子育て世代・高齢者向けの研修・啓発を実施し、交通ルール遵守・マナー向上、自転車保険加入・運転免許の返納呼びかけを行う。自転車事故の頭部損傷を踏まえ、全年齢対象の自転車用ヘルメット購入補助制度の活用を促進。来街者向けに多言語情報を提供(冊子・区ホームページ・SNS)。駐輪場を自転車の大型化・電動化に対応して再整備し、放置自転車の抑止へ協力を働きかける。自転車(民間シェアサイクル含む)の安全な活用を促進し、区民の健康・暮らしの質・活動範囲の拡大を図る。
定性的評価の視点(修正前)	地域と連携し進める左記等の諸活動を通じて、区は地域情報に直接触れることができる。なにより区民が交通安全へ関心を持つきっかけとなっている。
指摘事項／改善の方向性案	【抽象的】数値で捉えられない施策の効果にはどのようなものがあるか、を抽出されたい。取組方針から、交通安全対策や普及啓発に対する区民の反応、駐輪場利用者からの声を捉えられないか。
定性的視点(修正後)	地域と連携し進める交通安全周知啓発活動や、子育て世代や高齢者向けの研修会等を通じた、区民の交通安全への理解度や反応。区や警察への具体的な要望等による交通安全機運の醸成。

- ➡視点についての考え方を複数回調整する中で、所管課が施策に関する取り組みを具体的に分解し、考えられうる具体的なエピソードに想像が至ったことで、記載内容が改善された。
従来定性的視点がなかなか出てこなかったその他都市関連施策においても、改善が見られた。

④ 「疑義あり」の例

施策	7-④ 魅力あふれる公園づくり
取組方針(要約)	小規模公園を再構築し、世代を超えた意見を聴取しつつ、用途にメリハリをつけて特徴ある公園へ。障害の有無・年齢を問わず、安全に楽しめる空間を目指す。緑によるゆとりと環境質の向上を図り、身近なみどりを次世代へ資源として継承。地域の特性に応じた利活用を推進し、地域一体で取り組むとともに地域主体イベントをバックアップ。地域住民・民間・学生など多様な意見を地域ルールとして反映し、地域コミュニティの活性化を促進。池袋駅周辺の4公園を核に公民連携でイベントを実施し、情報発信を強化して公園回遊とまちの魅力を創出。
定性的評価の視点(修正前)	未記載
指摘事項／改善の方向性案	【未記載】取組方針に「様々な地域住民の意見を聞きながら」とあるので、その中で公園に対してどう感じているかを捉えることはできないか。取組方針ごとでなく、施策で一つの視点を抽出するのでもよい。
定性的視点(修正後)	<ul style="list-style-type: none"> ・公園改修前などに様々な世代の意見を聞くことにより、改修を契機として公園に関心を持つ人が増える ・公園に興味を持ち、訪れる人が多くなる

➡一つ目は、改修前に意見を聞くことで公園に関心を持つ人が増えるのかが不明。二つ目は定量的な視点になってしまっており、定性的評価の像が十分に理解されていない。

⑤ 定性的評価の視点のブラッシュアップ総評

改善された点

- 修正作業を通し、現場で捉えられる情報は何かということを改めて検討してもらうことで、事務局提案では出なかった「現場らしい視点」に改善された例が多くあった。
- 事務局の感覚として、所管部局が施策に関する取組みの細部を見直すことで、**施策に対する理解度が上がっている**と感じる。
定量的な指標のみで施策評価を実施していた時代よりも、現場の取組みや実際に施策の効果が区民にどのように波及したか等に、所管課の目線が向きやすい制度になりつつあるのではないか。

今後の課題

- 一方、定性的評価の視点が単純な数値の変化ではない、という根本的な要素についても、いまだ浸透しない部分がある。
- 「疑義あり」「修正なし」となった視点については、本委員会後、個別に調整を実施し、引き続きブラッシュアップ作業を行う。

(3) 令和7年度(令和8年度実施) 行政評価(案)について

①基本計画(2025-2029)に基づく行政評価の全体像



- 従来通り、毎年施策評価・事務事業評価を実施する。
- 「豊島区実施計画」計画事業にも成果指標・活動指標を1つずつ設定し、その結果は「主要な施策の成果報告」にて確認する。

② 主な変更点

従来	
施策の指標の 達成状況	成果指標
	活動指標
	達成状況分析(自由記述)
定性的評価	取組方針
	期待する効果
	具体的な取組
	期待する効果が得られた 具体的事例
総評	指標達成状況、取組方針ごとの 次年度の具体的方針(自由記述)
事務事業	施策を構成する事務事業 及び決算・予算



新様式案	
施策の指標の 達成状況	成果指標
	活動指標
	(補助指標)
	達成状況分析(自由記述)
取組方針に対 する具体的な 取組状況	取組状況(自由記述)
定性的評価	評価の視点
	定性的効果の有無
	事例詳細

③-1 様式(案)

主な変更点(1) 取組方針と取組状況

7. 取組方針に対する具体的な取組状況	取組方針①	歴史的文化財の継承と魅力発信
	取組状況①	雑司が谷旧宣教師館では……した。
	取組方針②	
	取組状況②	
	取組方針③	
	取組状況③	

- ・各取組方針の内容について、取組状況を記載。
- ・取組方針は施策により1～3つある。

取組方針

歴史的文化財の継承と魅力発信

- 本区には、自由学園明日館や雑司ヶ谷鬼子母神堂といった国指定重要文化財、雑司が谷旧宣教師館等の都指定有形文化財、鈴木信太郎記念館をはじめとする区指定有形文化財があります。これらの文化財に加え、長年区内で保管されてきた池袋モンパルナスを代表とする貴重な絵画や地域の民俗資料、豊島区の風景写真等についても、歴史的価値を守りながら、それぞれの特徴に応じた適切な維持管理を行います。
- これらの文化財について、より多くの人々が身近に感じられるよう、デジタル技術を活用したバーチャル展示や体験型イベントの実施、現地でのワークショップや鑑賞機会を増やす取組を推進します。さらに、SNSや各種プログラムを活用して魅力を発信し、関係団体との連携を強化することで、資料や文化財の価値を的確に伝え、地域の文化の継承と活用を推進します。

③-2 様式(案)

主な変更点(2) 指標の掲載期間と補助指標

8. 施策の指標 達成状況	指標①					令和7年度 達成状況	(例) A: 達成
	計画策定時 現状値	計画期間の 達成状況	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
		目標値	80				
		実績値	64				
		達成率	80.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	指標②					令和7年度 達成状況	(例) A: 達成
	計画策定時 現状値	計画期間の 達成状況	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
		目標値					
		実績値					
		達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
	補助指標①					令和7年度 達成状況	(例) A: 達成
	計画策定時 現状値	計画期間の 達成状況	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)
		目標値					
		実績値					
		達成率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!

目標値と実績値の経過は
計画期間に合わせ
3年間→5年間

計画の指標が使用できなくな
った場合などには、補
助指標2つの平均値で評
価できるよう準備。
※必要時のみ使用

③-3 様式(案)

主な変更点(2) 定性的評価

9. 定性的評価	評価の視点	防災フェス等の各種イベントや……
	定性的効果有無	効果があった
	事例詳細 (効果なしの場合にはその理由)	防災フェスでは区民〇人、関連企業や団体などが〇団体参加し、「防災グッズを見直す機会になった」や、……の声があり、防災意識の向上が見られた。

指標設定チェックシート

定性的評価	
数値目標では捉えられない／数値化できない評価の視点	
防災フェス等の各種イベントや救援センター開設訓練の実施の際、アンケートから得られる参加者の声により在宅避難の推進や防災意識の向上に繋がったか	

- ・指標設定チェックシートで抽出した定性的評価(今回ブラッシュアップ済)の視点に基づき、実際観測できたエピソードを記載する。
- ・指標設定チェックシート記載した視点で事例が得られなかった場合には、新たな視点を設けてもよいこととする。(大切なのはその年度の実施の結果、施策の効果と言える事象や状況を把握していること)

③-1 計画の指標に変更が生じた場合の対応案

○豊島区基本計画(2025-2029年)の施策において、指標の実績値を毎年取得することが困難になった指標が発生した。

○政策判断等により、基本計画の指標や目標値を存続させることが不可能となるケースは今後も発生しうるため、**補助指標を2つ**設定する対応策を検討している。

施策	3-1-5 暮らしやすく、社会につながる環境の整備				
指標	65歳以上で要介護認定を受けていない方のスマートフォンの所持率【%】				
目標値	2025	2026	2027	2028	2029
	79.0	79.5	80.0	80.5	81.0
対応案	スマートフォン所持率の実績の代替となる補助指標を設定することを検討。 ニーズ調査実施年度は正規の実績にて評価し、ニーズ調査のない年度は、スマートフォン講座や高齢者イベントでのアンケート等からスマートフォン所持率を補足できる指標や、別に施策の効果を図る指標を補助指標として2つ設定し、施策を評価する。				

3年に1度の調査に変更

③-2 補助指標(案)

補助指標①	イベント参加者における高齢者のスマートフォン所持率【%】			
目標値	2026	2027	2028	2029
	83.5	84.0	84.5	85.0
説明	本来の調査は5000人規模であるが、次点で最も対象者を多く集められる高齢者イベント(900名規模)の参加者アンケートにて、同様の質問項目を設定し数値を取得。目標値は本来指標よりも割高だが、これは対象者がイベントに参加できる元気高齢者の割合が多く、スマートフォンの所持率も比較的高くなると推測して設定したためである。			
補助指標②	スマートフォン活用講座の参加人数【人】			
目標値	2026	2027	2028	2029
	40	40	40	40
説明	コミュニティソーシャルワーク事業におけるスマホ相談会と、高齢者福祉課実施のスマホ相談会の参加者人数の合計。講座実施回数は活動指標として指標設定チェックシートに挙げられていたが、成果指標の補助指標となる点を鑑み、より成果指標的な指標を設定した。			

➡令和7年度(令和8年度実施)施策評価様式案は、
補助指標が発生した場合には対応できるよう調整済。